

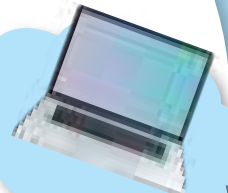
公益信託あだちまちづくりトラスト

# 第13回 助成活動団体成果報告会 報告書 & 助成制度のご案内

開催日時：令和4年10月26日(水) 午後1時00分～5時50分

開催場所：シアター1010 アトリエ

あなたの  
**まちづくり**  
を  
応援します！



# 第13回 助成活動団体成果報告会報告書

令和4年10月26日(水)、「第13回公益信託あだちまちづくりリラスト助成活動団体成果報告会」を開催しました。  
今回は、令和2年度及び3年度にまちづくり活動を行った団体のうち、16団体による成果報告を行いました。

## 目次

### 【発表団体】

No.1 「古民家をつなぐあだちの魅力発信プロジェクト」 東京未来大 森下一成研究室 足立区内地域資源活性化プロジェクトチーム	3	
No.2 「地域のペットの犬と人との共生事業」 NPO法人 わんわんサポーター綾瀬	4	
No.3 「昔遊びベーゴマ教室」 特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会	5	
No.4 「主に中高年女性の生きづらさに関する質的調査と冊子編集発行」 Alliance YouToo	6	
No.5 「足立区のがん検診受診率向上に関する活動」 城北ヤクルト販売株式会社	7	
No.6 「相続人放棄(所有者不存在)の空き地の実験的整備事業の研究」 一般社団法人 まちなか整備・管理機構	8	
No.7 「子どもの居場所と朝食提供事業」 第7地区子どもの居場所づくり実行委員会	9	
No.8 「子どもたちが表現を吸収する場所～子ども表現堂」 一般社団法人 ほしかぜ	10	
No.9 「てらまちハウスぽけっとパーク」 足立区竹ノ塚ママとベビー・キッズのコミュニティKoen	11	
No.10 「地域の誰もが自分の意志で訪れることのできる駄菓子屋カフェ食堂」 特定非営利活動法人 Chance For All	12	
No.11 「FranMuan ラオスのてしごと」 特定非営利活動法人 Support for Woman's Happiness	13	
No.12 「もっとあだちを知ろう、楽しもう!モア・アダチ2021」 一般社団法人 ADACHI WOMEN&ALLIES	14	
No.13 「あだち子どもの日本語教室」 特定非営利活動法人 メタノイア	15	
No.14 「児童養護施設の子どもの自立支援プログラムの実施」 一般社団法人 おせっかい子育てプロジェクト	16	
No.15 「足立区における『子ども第三の居場所』コミュニティモデル事業」 一般社団法人 チョイふる	17	
No.16 「千住地域での映画制作及び上映事業」 知らない路地の映画祭制作委員会	18	
【書面での報告団体】		
No.17 「梅島ひまわりプロジェクト」 足立区立第九中学校	19	
No.18 「シティコンポストプロジェクト」 あだちコンポスト委員会	19	
No.19 「足立レインボー映画祭」 足立レインボー映画祭	20	
【街並み空間・自主管理歩道整備】 No.20 イニシア千住曙町管理組合法人、No.21 ライオンズプラザ北綾瀬管理組合		20
【令和3年度助成活動団体一覧】		21
【公益信託あだちまちづくりリラスト 助成制度のご案内】		22

## はじめに



吉満 明子 委員長  
(株)センジュ出版 代表取締役

毎年、この成果報告会を楽しみにしています。トラスト申請の審査会では、運営委員のメンバーそれぞれが緊張とともに審査を繰り返すわけですが、この成果報告会では、私たちのほうが審査を受けていると感じることが多々あります。なぜなら期待をして選ばせていただいた皆さまの成果報告によっては、少しイメージと違っていただけると感じることがございますし、反対に私たちが思っていた以上の成果を見せてくださる団体さまもこれまでたくさんあったからです。その意味では、皆さまの発表を受けて、私たち自身も今後、意義のある審査につなげていければと思っていますので、お力添えのほどどうぞよろしくお願いいたします。



No.1 東京未来大 森下一成研究室  
足立区内地域資源活性化プロジェクトチーム

## 古民家をつなぐあだちの魅力発信プロジェクト

発表者  
飯田 達也さん(左)  
のさこん  
野左近 里緒さん(右)



### 学生コース

申請額・助成額

100,000円

### 助成金の主な使いみち

- マップデザインや印刷費  
1,000冊

### (活動内容)

足立区のさらなる発展に向け、北千住の新たな魅力を発見してもらうための「古民家を知る!北千住の新たなまち歩きマップ」を作成。マップ作成にあたり、古民家や空き家をリノベーションして活用している商業施設を調査、インタビューを実施。最適なまち歩きコース提案のため、評価項目をもとにフィールドワークを行いました。

### 活動の成果

完成したまち歩きマップを、学内、オープンキャンパスで頒布、マップを活用したまち歩きをおすすめしています。今回は、足立区生涯学習センターとの協働で、マップのコースを実際に歩くイベント(参加人数14人)を開催しました。イベントを通して、足立区の新たな魅力を知っていただくとともに、活動の幅をさらに広げていきたいと思えます。

### 次回活動に向けて

作成した「まち歩きマップ」のゆっくりコース〔バリアフリーコース〕を実際に歩くイベントを行いました。今後は、その他のコースについてもイベント化していきたいです。また、イベント後は、本プロジェクトを研究室の後輩に継承し、今後もSNSでの普及なども含め、さらなる発展に向けて活動を継続していきます。



▲発表当日の野左近さん



▲発表の様子



▲roji-coyaにて店主の方と(インタビュー時)



▲はれてまりカフェにて取材



▲古民家を知る!北千住の新たなまち歩きマップ



▲地図作成の様子(左から飯田達也さん・岩淵翔平さん・元木千代丸さん)

### 講評

#### まちの魅力発信のその先を期待

足立区にとって、どのように空き家を活用していくのかは大きな課題です。千住は魅力的なまちで、やはり千住だからこのような活動ができたという気もします。空き家の魅力的な活用例だけでなく、空き家を新たにどう活用するのかというところまで踏み込んでいただくと、私たちも参考にできたかなと思いました。活動自体は、千住の魅力がしっかりと伝えられているので、今後も続けていただければと思います。



犬童 尚 運営委員  
足立区都市建設部長



# 地域のペットの犬と人との共生事業



発表者  
石田 富美子さん(左)  
藺田 深雪さん(右)

## 身近な活動コース

申請額 **300,000円**

助成額 **160,000円**

## ■ 助成金の主な使いみち

- ・事務消耗品等購入費用
- ・ドッグトレーナー謝礼金

## (活動内容)

地域社会とペット犬の共生を目指して活動しています。全国的に犬の散歩禁止の公園が増えていますが、飼い主のマナーやモラル向上のため、令和3年3月～5月の第2日曜日に都立東綾瀬公園と協働で、公園の清掃活動を犬と一緒に行いました。また、災害時の備えや相互扶助のために、飼い主や犬との交流会、しつけ教室を実施しています。

## 活動の成果

令和4年10月～12月は、第2日曜日のゴミ拾い活動、月1回の交流会を行いました。10月には、保木間公園少年野球場での竹ノ塚警察署のわんわんパトロール講習会へ参加(参加人数13人)。12月は、綾瀬警察署のわんわんパトロール講習会(しょうぶ沼公園少年野球場にて開催)で、わんちゃんとの楽しいイベントを実施しました(参加人数22人)。飼い主や犬との交流会、しつけ教室は、概ね好評で、入会希望者が増えました。併せてゴミ拾い活動にも多くの人が参加し、犬を飼っていない方の参加も見られました。

## 次回活動に向けて

地域や警察署と連携し、活動を進めます。また、インスタグラムや新しいホームページを作成し、団体の活動を紹介するなどPRを強化します。将来的に団体の自立運営を目指しており、令和4年度より年会費1,000円の会費制とすることができました。今後さらなる活動につなげていきたいと思っています。



▲発表当日の藺田さん



▲発表の様子



▲令和4年3月に行われたゴミ拾い活動の様子



▲交流会 輪くぐりの練習



▲交流会 トンネルくぐりの練習



▲令和4年5月に行われたしつけ教室

## 講評



依田 保 運営委員  
足立区地域のちから推進部長

### 犬と犬、人と犬、人と人、コミュニケーションのさらなる広がりを

わんわんパトロールやゴミ拾いなどに、地域の方が関わって活動いただけることは大事なことだと思います。いくつかお話をさせていただくと、活動に参加された方々の気持ちの変化を、アンケート調査などを利用して把握していただくと、よりよい活動につながっていくのかなと感じました。また、会に参加する方には、その時だけ参加できればいいという方、取り組みを共にもっとよくしていきたいと思う方など様々な方がいると思います。そのような点にも配慮し、活動を盛り上げていただければと思います。犬だけではなく、人の感情もとらえていただくと、よりよい活動になるのかなと感じました。

## 昔遊びベーゴマ教室



発表者  
有澤 次男さん

### 身近な活動コース

申請額・助成額

**290,000円**

### ■ 助成金の主な使いみち

- 貸出し用ベーゴマセット  
購入費 200セット

### (活動内容)

コロナウイルス感染拡大の影響を受けるなか、感染対策を万全に整えることで、ベーゴマ教室を開催することができました。西新井さかえ公園では17回1,604名、学童では23回826名、児童館では13回524名、合計53回のベーゴマ教室開催で、延べ2,954名の方にご参加いただきました。

### 活動の成果

コロナウイルス感染拡大の影響で、町内、企業イベントは中止となりましたが、感染対策に万全を期することで公園、学童、児童館では、ベーゴマ教室を開催することができました。助成金活用により普及活動の幅が広がると同時に、学校・町会・企業からのベーゴマ教室開催の依頼も増え、地域活性化とまちづくりに貢献できたと思います。

### 次回活動に向けて

各地で町会、企業イベントの開催が減少しているの、町会や企業と協力し、昔遊びベーゴマ教室の開催を増やしていきたいと思います。また、ベーゴマを通じて「世代をつなぎ、地域をつなぎ、伝統文化をつなぐ」を理念とし、子どもたちや高齢者の居場所づくり・地域交流の活性化を促し、豊かなまちづくりに寄与していきたいと思っています。



▲発表当日の有澤さん



▲発表の様子



▲子供と戦うスタッフ



▲西新井さかえ公園でベーゴマ教室



▲子どもに教える代表



▲家族ぐるみでベーゴマ回し

### 講評

#### まちづくりから人づくりへ、さらなる展開に期待

ベーゴマを通じて、いろいろな年齢層の方が縦横に交流していて、まさに新たな社交の場が生まれたのだなと実感しました。代表者の有澤さんがトラストの申請に訪れた時、正直、ベーゴマで人が集まるのかなとの思いがあったのですが、このように多くの人を集め活動されている報告を聞き、ITなど社会が急速に変化する時代だからこそ、このような伝統的な遊びが必要なのかなと感じています。子どもから高齢者まで、一同に会して活動できる伝承遊びが、核家族の多い現代社会だからこそ必要なのでしょうか。今後は、まちづくりだけではなく、地域のための人づくりにも活動を展開していただき、地域の発展に貢献していただけたらと思っています。



浅香 孝子 運営委員  
まちづくり推進委員

## No.4 Alliance YouToo

# 主に中高年女性の生きづらさに関する 質的調査と冊子編集発行

発表者  
古怒田 悦子さん(左)  
相澤香織さん(右)



### 身近な活動コース

申請額・助成額

300,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- 冊子印刷経費 1,000冊
- 冊子郵送料

## (活動内容)

中高年女性が抱く生きづらさに焦点を当てて、アンケート(対象人数46人)やインタビューを行い、その成果を冊子にまとめ、講演会等で広く伝えていく活動をしています。

## 活動の成果

令和3年度は、女性の生きづらさに焦点を当てたアンケートおよびインタビュー調査を実施し成果を冊子にまとめました。調査は40代後半～60代前半の女性が担当し、電話、オンライン、対面により、ヒアリングを実施。調査のなかで、共感や寄り添いの気持ちが生まれるなど、シニア女性の生きづらさの可視化・解消につながる活動となりました。

## 次回活動に向けて

冊子づくりで得られた経験・知見は、成果として講演会などで広く地域に発信していきます。さらに、女性が安心して過ごすことのできる「居場所づくり事業」に着手予定。まずは、ファイナンス相談、心理相談、心身の癒しセラピーなどを盛り込んだイベントを開催し、心地よく過ごせる実際の場所づくりに取り組んでいきます。



▲事業報告を行う相澤香織さん



▲発表の様子



▲冊子づくり方針についての編集オンライン会議



▲完成した冊子「シニア女性白書」



▲編集スタッフの湘南合宿の様子



▲三井マリ子さんの寄稿ページ  
写真はベリット・オース(三井さんご提供)

## 講評



吉満 明子 運営委員長  
(株)センジュ出版 代表取締役

### 中高年女性の感じるモヤモヤを見事に可視化、次なる展開を

中高年女性の方の言葉にもなりにくいモヤモヤを、インタビューを通じて可視化し、その課題を皆さんに広く知っていただくきっかけをつくられたことにおいて、今回の活動の目的の一部は達成されたのではないかと感じております。そして、この活動の先に、課題の浸透や居場所づくりであったり、または、課題解決の兆しもあるかと思われま。完成した冊子1,000部をしっかりと活用いただき、モヤモヤの言語化、モヤモヤの可視化が、どのような形で改善、解決されていくのか、そのようなストーリーも続けて発信していただけると、活動に共感される方々もさらに広がっていくのではないかと感じております。

## 足立区のがん検診受診率向上に関する活動

発表者  
青山 雅之さん(左)  
嶋田 美礼さん(右)



### イベント・整備活動コース

申請額 2,990,000円

助成額 2,370,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- 啓発用冊子購入費 10,000冊
- 講師謝礼金 8回 (内訳 医師9名、サバイバー7名)
- 講座会場使用料

### (活動内容)

足立区・荒川区管轄のヤクルト販売会社ですが、販売とは別に地域のがん死亡率を下げる為の啓発活動を実施。主にヤクルトレディの訪問にて、冊子「がん検診のススメ」を用いてがんの正しい知識の普及やがん検診の重要性を伝え、受診までのお手伝いをしています。その他、がん専門医を招いた無料のがん講座も開催しています。

### 活動の成果

区とがん対策に関する連携協定を締結し、ヤクルトレディを中心として「がん検診のススメ」冊子を年間5,100名の区民へ配布、529名の新規定期がん検診受診に繋がりました。また、がん専門医やサバイバーによる無料がん講座は、合計528名が参加。中学生向けがん教育授業もスタートし、区民への啓発活動が拡大しつつあります。

### 次回活動に向けて

ヤクルトレディによる訪問活動、がん講座、がん教育授業を今後も継続することに加え、がんに関する大型イベントの開催を予定。親子での参加を想定し、健康について改めて考える機会を提供することで、がん検診の受診意識へと繋がっていただきたいと思います。年間2,000名の新規受診者を目標として今後も取り組みを続けていきます。



▲発表当日の青山さん



▲発表の様子



▲社内勉強会



▲ヤクルトレディの草の根活動



▲区民向けがん講座



▲区立第一中学校がん授業

### 講評

#### 新たながん検診受診者529名の成果を生んだ啓発活動

足立区は、がん検診を受診する人が少ないという話を聞いたことがあります。健康診断も、区では、できるだけ多くの人に受診していただきたい意向があり、早期に受診した人には、特典を付与するなどの施策をしています。そのような状況のなか、ヤクルトレディの草の根的な啓発活動により新たながん検診受診者529名という結果を出してくださったこと、活動の成果がしっかりと感じられます。がん専門医とがんサバイバーによる無料がん講座も、がん検診の受診の重要性を伝えるには大きな効果があるのでしょうか。今後は、この活動をさらに足立区全体にも広げていただければと思います。今後の活動に期待しております。



浅香 孝子 運営委員  
まちづくり推進委員

## 相続人放棄(所有者不存在)の空き地の 実験的整備事業の研究

発表者  
葛生 貴昭さん



### はばたき支援コース

申請額 1,330,000円

助成額 330,000円

### 助成金の主な使いみち

- 相続人全員が放棄し、所有者がいなくなった土地の処分のための相続財産管理人申立に関わる弁護士費用

### (活動内容)

法律の問題などで、区が対応しにくい所有者不存在の空き地案件を、まちづくりトラストを活用して解決しています。また、足立区弘道に所有者死亡後、相続人全員が相続を放棄し所有者がいなくなった空き家がありましたが、このように所有者不存在により処理の難しい不動産物件を現行の法律に従って処分する活動をしています。

### 活動の成果

相続放棄で処分の進まない空き地を解消し、周辺環境の向上により良好なまちづくりに貢献できました。物件の売却金は国に帰属するため、迷惑な放置空き地を国の資産に変えられることが実証できました。トラストの活用により所有者不存在案件の処分方法が確立できたと同時に問題解決の新たな方法の実例を示すことができました。

### 次回活動に向けて

相続人全員が相続を放棄した物件の処分は「国が対応してくれる」という誤解がありますが、実際は何もしてくれません。まちづくりトラストを活用し問題解決の実例をつくり、実務の内容と課題を共有化することで、民間団体や行政が早期に解決できるシステムの構築を提案をしていきたいと思ひます。



▲発表当日の葛生さん



▲発表の様子



▲老朽化が進んでいる空き家



▲相続放棄者が費用をかけ解体し、更地になった



▲裁判所任命の不在者財産管理人が買い手を見つけ、建物新築



▲長年空家で使われなかった場所が建替えられ、新しい所有者が利用している

### 講評



松沼 勝 運営委員  
まちづくりカウンセラー

### 専門家による唯一無二の活動、長期の継続を

今回のように相続人全員が相続を放棄しており、所有者が存在しない状態の土地の処分を行い、土地の管理不全状態を改善しまちづくりに役立てていくという活動は、専門家に対処していただくことが必要であり、現状、まちなか整備・管理機構さん以外では扱うことのできない案件だと私は思います。空き家、空き地をゼロにしたいとの思いで活動されていて、トラスト助成以外を自己資金で賄っており、案件をこなすほど赤字になるとのこと。個人的には、この活動を長く続けていただきたいと思ひますので、助成対象となる経費をよく検討のうえ、今後是非頑張つて活動を継続いただければと思ひます。



## 子どもの居場所と朝食提供事業



発表者  
藤沼 壯次さん(左)  
今村 保さん(右)

### はばたき支援コース

申請額 2,000,000円

助成額 240,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- 食材費  
昼食提供回数 26日  
(151名分)
- 従事者保険料

### (活動内容)

不登校の生徒の居場所づくりと高齢者のための貸室事業、学校の長期休暇時の昼食提供を行っています。

### 活動の成果

不登校生徒の居場所事業は2名の参加があり61日間実施、学校長期休暇時の昼食提供事業では、26日間実施し延べ151名の参加がありました。なお不登校生徒1名を特例課程教室「あすテップ」につなげることができました。高齢者のための貸室事業では、健康サロン、健康マージャン教室などに貸し出しし、貸室事業で得た収益を活動費に充てることができました。

### 次回活動に向けて

朝食提供事業は、令和4年度より足立区あだち未来支援室が運営することになったので、状況を見て必要があれば協力していきます。不登校生徒の居場所提供事業と長期休暇時の昼食提供事業、貸室事業は、引き続き実施いたします。その他、社会のニーズに合わせ、高校生を含めた子どもや高齢者などの支援に尽力していきます。



▲発表当日の藤沼さん



▲発表の様子



▲不登校生徒の居場所の様子



▲不登校生徒の居場所食事風景



▲夏休み昼食提供準備の様子



▲夏休み昼食提供メニューの一例

### 講評

#### 不登校生徒や高齢者が安心して過ごせる居場所づくりを実現

言うは易し行うは難しと申しますが、実行するのはなかなか大変なことだと感じました。対象となる子どもたちの中には不登校の生徒もいて、食事を提供しながら、また、居場所を確保しながら、地域の方々为抓手と取り組まれていることに敬意を表します。今後も地域の方々のお力をお借りし、連携しながら、この成果を継続し、不登校などで困っている子どもたちを助けていただきたいと思っております。貸室事業に関しては、自立に向けた収益面での成果もありますので、高齢者の皆さまの居場所づくりとして、今後もしっかりと取り組んでいただきたいと思います。



新井 ひでお 運営委員  
足立区議会 議員

## 子どもたちが表現を吸収する場所 ～子ども表現堂～



発表者  
山川 久美子さん (左)  
伊勢 希美さん (右)

### はばたき支援コース

申請額 **880,000円**

助成額 **830,000円**

### ■ 助成金の主な使いみち

- ・参加募集チラシ印刷  
5回 合計27,000枚
- ・会場使用 14回

### (活動内容)

梅島及び西新井周辺地区の学童期の子どもを対象に、表現活動を体験する場を提供します。月に1～2回、演劇要素を取り入れて互いにコミュニケーションをとりながら協力し合って表現を体験する活動、月1回程度、講師にプロの表現者をお招きし、その表現を間近で見て、自分も体験・発表するワークショップを実施しています。

### 活動の成果

登録者数が100名、延べ436名の子どもが参加し、学校や年齢の異なる子どもたちの交流が活発に行われました。プロの技を目の当たりにすることで、様々な表現が吸収でき、子ども同士でコミュニケーションができる第三の居場所として定着しつつあります。まちづくりの観点からも、一定の効果が得られていると感じています。

### 次回活動に向けて

引き続き月1回程度の定期的な開催を目指し、表現活動を体験することで、子どもたちが自分らしさを表現するきっかけとなるような場を提供していきます。表現の内容によっては、定員に満たない回もあるので、子どもたちがどんな体験を求めているかを探りつつ、これまで体験したことのない表現を届けるようにしたいと思います。



▲発表当日の伊勢さんと山川さん



▲発表の様子



▲令和3年5月 コントーションワークショップ



▲令和3年5～7月 歌をつくろう！ワークショップ



▲令和3年10月 ダブルダッチワークショップ



▲令和4年2月 ジェンバワークショップ

### 講評

#### プロの表現者と接する貴重な体験が豊かな感性を育む

5歳から12歳の時期にこういった表現に触れたり、見たり、聞いたりすることが、後々の人生を豊かにすることは間違いないと思います。小さな頃の原体験が今の自分の元になっているというようなプロの表現者の方の話は、いたるところで耳にします。その意味では、子どもたちの表現に関わるこの事業は非常に大事だと感じております。ラップであったり、マジックであったり、落語であったり、普段、学校では触れられないことに触れる、また学校を超えた友だちとの絆などが育まれると、より豊かに感性が磨かれていくのではないかと感じました。今後の活動に期待しております。



くぼた 美幸 運営委員  
足立区議会 議員

## てらまちハウスぽけっとパーク

発表者  
山本 亜紀子さん



### はばたき支援コース

申請額・助成額

2,000,000円

### 助成金の主な使いみち

- ベンチ制作 1台(約8.8m)
- 水場工事費 1箇所

### (活動内容)

敷地内の歩道側に多世代交流のための長いベンチを設置しました。また、子どもたちからシンボルイラストを募集、デザイナーのアレンジにより、ハウスの壁に「てらまちマップ」を描いていただきました。同時に案内板を作り、イベントのお知らせなどを発信しています。敷地内に設置した水道は、今後イベントで活用していきます。

### 活動の成果

てらまちハウスぽけっとパークは、親子だけでなく、地域の方に立ち寄っていただける空間となりました。ベンチの下にライトを設置し植栽を植えることで、きれいで安全・安心なまちづくりに貢献できたのではないかと思います。子どもたちが地域の特徴を学べる「てらまちマップ」は、寺町散策をしている方にも好評です。

### 次回活動に向けて

地域の子どもたち向けに「いこうてらまち歩き」の実施や「いこうてらまちおでかけマップ」を作成します。また、てらまちハウスの現在のサイクルポートを、イベント時にも活用できるよう拡張します。さらに親子で収穫を楽しむ「てらまち農園」や花壇をつくり、きれいで安心して暮らせるまちづくりを目指します。



▲発表当日の山本さん



▲発表の様子



▲「てらまちマップ」完成お披露目会



▲植栽の様子



▲ぽけっとパーク内に設置した案内板



▲ぽけっとパーク内に設置した水道

### 講評

#### 地域に生まれたとっても温かな場所の今後に期待

この事業の申請時から、地域のなかにとっても温かな場所ができるのだと感じていました。実際に助成金がこのような形で活用されたとの発表を受け、嬉しく思っています。今回、助成金のほとんどがハード面に活用されていますが、今後はコンテンツを継続していく意味で、新たな協力支援先や活動を継続するための収益の仕組みづくりなどを模索していただき、活動の幅を広げていただけるとよいのかなと思いました。実績に加え、メッセージ性のある情報発信もできるとと思いますので、協力する企業などは自ずと増えていくのではないのでしょうか。たくさんの方のお力やお知恵をお借りして活動を盛り上げていただければと思います。



吉満 明子 運営委員長  
(株)センジュ出版 代表取締役

## 地域の誰もが自分の意志で訪れることのできる駄菓子屋カフェ食堂



発表者  
中山 勇魚さん(左)  
飯村 俊祐さん(右)

はばたき支援コース

申請額・助成額

2,000,000円

■ 助成金の主な使いみち

・ 改装費

駄菓子屋「irodori」  
令和3年7月17日 OPEN

### (活動内容)

区内でフリースペースつきの駄菓子屋「irodori」を、平日、休日にかかわらず毎日、大学生ボランティアにより運営しています。「なにをしてもなにをしなくてもいい場所」として、駄菓子を買って友だちと食べる子、待ち合わせ場所にする子、大学生とお話する子、ここで知り合った友だちと遊ぶ子など、子どもたちはそれぞれの時間を過ごしています。

### 活動の成果

一人の学生ボランティアから始まった本事業は、現在、学生ボランティア130名が在籍。小学生を中心に毎月約1,500名の子どもが遊びに訪れ、地域に欠かせない居場所となりました。全国紙をはじめ各種新聞やテレビにも取り上げられ、irodoriで育った学生が、他の地域で駄菓子屋を立ち上げたり、行政がフリースペースつきの駄菓子屋を開設するなど、各所へ少なからず影響を与えています。

### 次回活動に向けて

多くの子どもたちや地域の人たちに愛されているirodoriですが、運営面では毎月赤字を出してしまっているのが現状です。今後は、寄付をはじめとして駄菓子販売以外の収益の仕組みづくりを模索し、事業として持続的に運営できるよう努力していきたいと考えています。



▲発表当日の中山さんと飯村さん



▲発表の様子



▲irodoriの外観



▲大学生スタッフ



▲買い物する大人の様子



▲普段の様子

### 講評

#### 第3の居場所で、第3の大人との触れ合いを実現

駄菓子屋の商品は、5円や10円の単位で販売されていると思います。そこでお願いなのですが、できれば1円単位で販売していただき、子どもたちが、例えば30円でなにを買えるかを一生懸命考えるような場になればよいと思っています。取り組みとしては非常にありがたく、第3の居場所であるとか、第3の大人の存在が問われるなか、とてもよい場所だと思っています。私もirodoriの前を通ることがありますが、子どもがいつもいて、楽しく過ごしているので、なにか子どもたちにとって、よい経験ができたか、子どもたちからの提案を実現できる場、達成感が生まれるような場づくりをしていただけるとよいと感じます。



依田 保 運営委員  
足立区地域のちから推進部長

# FranMuan ラオスのてしごと



発表者  
石原 ゆり奈さん

## はばたき支援コース

申請額・助成額

1,500,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- 動画製作費
- チラシ類デザイン料

## (活動内容)

Support for Woman's Happiness (SWH) は、平成29年にラオスで障がい作業所ソンプアを立ち上げ運営。現地に行くことができない期間にラオスと日本をつなぐべく、足立区から始まる「ラオス展」を企画開催。開催規模の拡大と質の向上をめざしつつ、今回は区内企業と連携しデザイン制作や製品づくりも実施しました。

## 活動の成果

纏うラオス展、赤のラオス展を開催。「私たちの地域でも開催を」という声を数多くいただいたことで、毎月一箇所ずつラオス展を開催するという取り組みの継続につながっています。ラオスPRのブランディングも進み、各メディアで取り上げられる機会も増えました。区内に固定の店舗・スペースを設けてほしいという声もいただいています。

## 次回活動に向けて

ラオス展の広がりを受け、令和5年ラオスまつり開催の依頼が届いています。今後は全都道府県でラオス展やラオスまつりを開催できるよう尽力し、日本とラオスの草の根交流を支えていきます。障がい作業所同士のコラボも活発になりつつあり、ラオス展で販路を維持しながら作業所をささえる仕組みづくりに取り組んでいきます。



▲発表当日の石原さん



▲発表の様子



▲地元足立区のロータリークラブ様と区内家劇場の活動をシェア



▲メディアへの掲載がぐんと増えました



▲高校生との活動、福祉を通じてラオスを知ってもらう機会が増えました



▲駐日ラオス大使館にてラオス大使及び大使館の方への活動報告

## 講評

### 地域の方々との連携で、さらなる広がりを

千住のまちが変化するなか、ラオスの方々との交流が広がることを期待しています。ひとつお願いをするのであれば、せっかく足立区千住で活動するのなら、千住のまちなかの店舗、商店街などと連携されて、活躍の場を広げていただければよいのかなと感じました。せっかくのよいものを足立区千住から発信するので、是非足立区内に向けても、いろいろと発信していただきたいと思っています。



依田 保 運営委員  
足立区地域のちから推進部長

# もっとあだちを知ろう、楽しもう！ モア・アダチ 2021



発表者  
片野 和恵さん(左)  
鈴木 雅代さん(右)

### はばたき支援コース

申請額 **1,130,000円**

助成額 **900,000円**

### ■ 助成金の主な使いみち

- モア・アダチタイムス印刷 2,000部
- ポータルサイト リニューアル費用

## (活動内容)

もっと足立を知って楽しんでいただくためのツールとして YouTubeに「モア・アダチちゃんねる」を開設。同時に活動を紙面で紹介する「モア・アダチタイムス」を発行。地域に活力を吹き込む活動をしています。

## 活動の成果

犬のRyuが区内の名所を英語で紹介する動画を7本制作、令和4年8月末時点で5本を「モア・アダチちゃんねる」で公開。ネイティブの英語表現を学ぶ教材として重宝され、区のイベント配信にも活用されました。5月14日に関原で「まちと人をつなぐモア・アダチフェスタ2022」を開催し、300人以上の方に楽しんでいただきました。

## 次回活動に向けて

トラスト助成で誕生したポータルサイト「モア・アダチ」「モア・アダチちゃんねる」「モア・アダチフェスタ」をより多くの人に活用していただけるよう、積極的に他団体と協創し『子どもと地域をつなぎ、大人を地域とつなぐ』、まちを元気にする活動を継続していきます。



▲発表当日の片野さん



▲発表の様子



▲YouTubeモア・アダチちゃんねる Ryuさんぽ



▲モア・アダチフェスタ2022 チラシ



▲ポータルサイトモア・アダチ



▲モア・アダチフェスタ当日の様子 (関原の森 光の広場)

## 講評

### さらなるPRで、活動を次なるステージへ

いろんな活動をこのモア・アダチで、もっともっとPRしていただくと、多くの方に見ただけ機会も増え、新たなステージも生まれてくるのかなと思っています。また、是非、活動の拠点をつくっていただいて、さまざまな場で活躍していただきたいというのが私の願いです。



松沼 勝 運営委員  
まちづくりカウンセラー



## あだち子どもの日本語教室



発表者  
山田 拓路さん

### はばたき支援コース

申請額 2,000,000円

助成額 1,410,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- 教材・教具購入 46人分
- 講師謝礼金 122回

### (活動内容)

竹の塚、新田、伊興の3地域に、外国ルーツの子どもが日本語などを学ぶ場を拡充する事業をしています。主に日本語指導が必要な学齢期の児童生徒に対し、日本語教師有資格者による日本語教育を実施。外国ルーツの幼児も受け入れ、保育士による工作や歌、読み聞かせなどを行い、楽しみながら日本語に親しむ機会を提供しています。

### 活動の成果

3教室合計で122回開催し、参加者数は延べ799人。事業終了(令和4年8月末)時点での在籍生徒数は3教室合計で34人、定員超過で待機生徒となったのは15名でした。日本語がわからず幼稚園を退園した幼児が教室に通い日本語を身につけたケースなど、子ども一人ひとりの言語習得をはじめとした全人的成長に伴走することができました。

### 次回活動に向けて

3教室とも今後も継続して開講。新田地域学習センターとの共催事業化にこぎつけた新田教室は、令和4年10月より、生徒1名/1か月1,000円の教材費実費を徴収することとしました。また、伊興教室は令和5年4月以降「東京都在住外国人支援事業助成」の事業へと移行させる予定です。トラスト助成で立ち上げた教室を持続可能なものとするための仕組みづくりに努めていきます。



▲発表当日の山田さん



▲発表の様子



▲時間を計りながらドリルに取り組む小学生



▲初めてひらがなを書く練習をしている幼児



▲絵本の読み聞かせを聞いて楽しんでいる幼児



▲ひらがなを読む練習の一環としてカルタ遊びをする小学生

### 講評

#### 持続可能な仕組みづくりで、事業の継続を

教室を122回開催し、参加者は延べ799人、日本語習得の達成度として、1年ほど教室と学校の生活を送った子は、友だちや先生と最低限のコミュニケーションはできるようになる例が多いとのこと。さまざまな国のお子さんを対象にして、日本語教育を行っていくのは大変なことだと考えますが、素晴らしい事業であり、今後も継続していただきたいと思います。収支のことかというと、トラスト助成だけで行うのは大変なことだと感じますが、教室を持続可能なものとするための仕組みづくりも考えておられ、非常に厳しい財政のなかですが、これからも子どもたちのために頑張っていただきたいと思います。



新井 ひでお 運営委員  
足立区議会 議員

## 児童養護施設の子ども向け 自立支援プログラムの実施

発表者  
郡司 公太さん(左)  
染谷 江里さん(右)



### はばたき支援コース

申請額 1,660,000円

助成額 1,140,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- ワークショップ開催 (9回) 材料費
- マップ印刷 300枚

### (活動内容)

どんな境遇でも負い目を感じることなく、様々なことに向き合い、子どもたちが未来に希望を持てる社会を創ることをテーマに、主に児童養護施設で暮らす子どもたちと地域の人々を繋ぐ足立区のボランティア団体です。近隣企業と連携を取り、お仕事体験会をアレンジしたり、第二の居場所で退所者との交流会を開催しています。

### 活動の成果

施設で暮らす子どもたちの「何かにチャレンジしたい!」という気持ちを施設と地域の方々が協力・交流し応援できる、開かれた関係づくりができました。また「里親」や「養子縁組」といった関係性ではない、地域の大人がみんなで見守り育てる新たな助け合いの輪ができました。やさしいおせっかいな街づくりを目指しています。

### 次回活動に向けて

今後は、施設の職員や行政と継続的に情報交換を行い、子どもたちのニーズに応えていけるよう、必要なものを考え、活動を通してつながったボランティアの方々と協力して、できる範囲でのサポートを継続して行いたいと考えております。



▲発表当日の染谷さん



▲発表の様子



▲クリスマスコンサートに向けてダンスの練習



▲ワークショップで制作したアート作品を展示



▲文教大学の授業と提携し、学生のボランティアさんに主体的に動いていただきました



▲「くるりプロジェクト」施設で暮らす子どもたちに食事を届けました

### 講評

#### 芽生えた地域とのつながりを、大きく成長させるために

養護施設のこと、私も含め、その存在自体を意識していない人が多いのではないかと感じています。地域とどうつながっていくのかということが課題だと思いますが、素晴らしいイベントを開催されて、地域とのつながりも芽生え、子どもたちも喜んでいることが感じられました。ただ、今後どうするのかということ、区も住宅のことなど支援はしているのですが、なかなか地域とのつながりのところまで入っていけない部分があります。子どもたちが喜んでいる姿を見るとなおのこと、今後ますます地域とのつながり、結びつきが深まっていくことを願います。



犬童 尚 運営委員  
足立区都市建設部長



## 足立区における『子ども第三の居場所』 コミュニティモデル事業

発表者  
井野瀬 優子さん



### はばたき支援コース

申請額・助成額

1,960,000円

### 助成金の主な使いみち

- あだちキッズカフェの施設使用 22回
- 人件費 2人

### （活動内容）

地域で孤立しがちな子育て家庭を対象に、子ども食堂に遊びの体験をプラスした居場所の提供を行い、地域住民、NPOと協力し、地域で子育てできるまちづくりを行なっています。令和3年11月に拠点となる一軒家を借り、令和4年4月から月2回の子ども食堂を開始、家とも学校（職場）とも違う第三の居場所活動を行っています。

### 活動の成果

子ども食堂、保護者向けや子ども向けイベント等、様々な角度で開催することにより、孤立しがちな困窮家庭親子の新規参加者が増えています。参加した子どもから「朝から何も食べていない」「夜まで何も食べないで過ごしている」という声がありました。令和3年度はイベントを開催し、多くの方に認知していただきました。

### 次回活動に向けて

地域の方から協力者を募り、開館日を週3日から週5日に増やす予定です。また、別事業「あだち・わくわく便」や「どこでも公園あそび〜す」と連携し、子どもたちが居場所に来てくれるよう努めていきます。さらに地域の支援団体さんと協力し、より広域で、子育て家庭を見守れる仕組みづくりを研究しています。



▲発表当日の井野瀬さん



▲発表の様子



▲親子向けイベント（ふれあい遊び）



▲物件DIYワークショップ



▲子ども食堂のごはんの一例



▲親子向けアロマストーン作りワークショップ

### 講評

#### ノウハウをシェアして、行政とも連携を

行政のセーフティーネットは網の目が大きすぎるのではないかと感じることもあり、我々もいろいろと議論する時に、網ですくえない人をどうするのかということもいつも話しています。今回の発表で、いくつかの団体が子どもの居場所の件を取り上げるなか、早くから続けていらして、一番実績があるのかなと思っています。他の団体さんともよく連携されていて、今後は、そのノウハウなどをシェアして、一緒に活動していただきたいと思っています。行政ともつながりを持って進めていくことも必要ではないかなと思いましたので、今後ともよろしくお願いたします。



犬童 尚 運営委員  
足立区都市建設部長

# 千住地域での映画制作及び上映事業



発表者  
工藤 理佳子さん(左)  
工藤 康浩さん(右)

## はばたき支援コース

申請額・助成額

1,000,000円

### ■ 助成金の主な使いみち

- 撮影・上映会の施設利用 27回
- 講師・技術等謝礼金 73回

## (活動内容)

映画制作を通して、地域の人々の縁づくりやまちの活性化につなげていく活動をしています。町内会・自治会や近隣住民の協力のもと、一緒に映画制作をしています。

## 活動の成果

コロナ禍、延期や中止を経て、2年ぶりに映画祭を開催。撮影スタイルを変えて作り続けた結果、新作6作品を上映。3ヶ月に一度更新する北千住駅前の大型ビジョンでの放送を行なっています。成蹊大実習生を受け入れて、市民アート活動の運営や制作に参加していただきました。Blu-rayを自ら試作。活動記録誌の作成に取りかかりました。

## 次回活動に向けて

令和5年4月29日・30日、学びピアにて映画祭を開催することが決定しました。新作映画の制作過程では、これまでと変わらず、イベントだけで終わらない、区民によるアート活動の文化事業を継続することを目指します。トラスト助成によるまちづくりに寄与する成果結果を活動誌の形にまとめます。



▲発表当日の工藤さん



▲発表の様子



▲初めて参加した人をつなぐオープン会議



▲運営と制作を担う知ら路地コアメンバー



▲毎週金曜夜7時。駅を降りたら映画が流れる



▲学びピア初開催の映画祭は過去最大来場数に

## 講評

### SNSツールや行政との連携を駆使し、さらなる情報発信を

千住を中心とした足立区というのは、非常に親しみ深く、今でも隣近所の付き合いや、さまざまな出会いが他の区に比べれば多いのではないかと感じています。そして、一度つながると、長く親しみをもって継続的に住んでいただける方も多い区だなと思います。そのまちを中心に、このような映画がつくられ、区民の皆さまに喜んでいただけていることを考えますと、これからの活躍に非常に期待がかかるところです。また、広報活動の面でいいますと、広報宣伝の広がり意識していただけると、さらにより「知らない路地の映画祭」というものができてくるのかなと思います。



くぼた 美幸 運営委員  
足立区議会 議員

No.17 足立区立第九中学校

梅島ひまわりプロジェクト

代表者 新田 敦彦さん

学生コース

申請額・助成額

100,000円

■ 助成金の主な使いみち

- プランター (50個) 等  
消耗品や種セット購入費用

(活動内容)

足立区立第九中学校の生徒会が中心となり、梅島駅前通り商店街に協力を要請し、店頭にはまわりのプランターを設置する活動をしています。ひまわりはNPO法人チームふくしま福島ひまわり里親プロジェクト事務局の主催する「福島ひまわり里親プロジェクト」の一環で、東日本大震災からの復興のシンボルの意味があります。

活動の成果

合計31か所（梅島駅、地域学習センター、協力店舗ほか）へのひまわり配布を実施しました。また、作成したポスターを商店街各所に掲示し地元商店街の活性化を後押し。ひまわりの配布を通して生徒と商店街の人々の交流が盛んになりました。足立朝日新聞、東武鉄道公式SNSにも掲載され、商店街の知名度向上にも貢献できました。

次回活動に向けて

令和3年度の活動により回収したひまわりの種を活用して、令和4年度も継続して活動を実施。学校方針に基づき、規模を縮小し、商店街へのポスター提供と、梅島駅への展示のみ行いました。



▲商店会長作成ポスター



▲生徒ボランティアによる水やり作業



▲梅島駅への装飾作業



▲商店会長、梅島駅員、生徒会役員の集合写真

No.18 あだちコンポスト委員会

シティコンポストプロジェクト

代表者 石村 大輔さん

はばたき支援コース

申請額 1,590,000円

助成額 870,000円

■ 助成金の主な使いみち

- 堆肥化に必要な資材
- 畑・農業講師謝礼 1人4回
- 3Dプリンタレンタル  
リース費用

(活動内容)

生ごみの再利用によるごみ排出量削減、コンポストを媒体とした地域内のつながりの活性化と食を通じた賑わいのあるコミュニティの形成を目指して活動。区内の各家庭や飲食店における生ごみを収集・資源利用した堆肥づくり、その堆肥を施用した有機野菜づくりを行なっています。

活動の成果

令和3年度は、8家庭・1飲食店（計15人）のメイン参加者に加え、野菜づくりのみ参加の4人で活動しました。東綾瀬にある団地「いろどりの杜」の一角にコンポスト小屋を設置し、活動の拠点としています。他地域からのヒアリング、海外アーティストからの問い合わせなど、活動への反響が多数ありました。

次回活動に向けて

令和4年度も引き続き、生ごみの堆肥化～資源再利用の循環を行いながら、プロジェクト運営のためのノウハウ習得を目指します。また、今季からの新しい試みとして、参加人数の増員、自立に向けて一部参加費の徴収、コンポストボックス・堆肥販売のためのパッケージデザインの試作を行う予定です。



▲各家庭に設置の家庭用コンポストケース



▲コンポストケースづくりワークショップ



▲二次処理の様子



▲堆肥で育てた野菜を収穫

No.19 足立レインボー映画祭

足立レインボー映画祭

代表者 長村 さと子さん

イベント・整備活動コース

申請額 1,450,000円

助成額 1,430,000円

■ 助成金の主な使いみち

- 劇場使用料
- トークゲスト（15名）謝礼金

（活動内容）

足立区にLGBTQの理解を広げるために、一般の方でも参加しやすく触れやすい題材として映画祭を企画。映画の内容を深く掘り下げるために、上映後、専門家を招いてのトークショーを開催する活動を行います。

活動の成果

LGBTQに関するさまざまなジャンルの映画を春と秋の各1日ずつ、合計2日間で計6本の映画を無料上映。LGBTQ当事者と接することのない層の参加もあり、アンケート結果から、LGBTQに対する理解、関心の広がりを感じられました。スタッフやゲストなどが、当事者と接する機会もあり、その存在を実感してもらうことができました。

次回活動に向けて

春と秋のあだちレインボー映画祭が大変好評だったこともあり、今後は、区の公式イベントとして開催されることが決定しました。映画祭チームを元に「そらにじあだち」を発足、地域のLGBTQ関連イベントの開催を予定しています。



▲映画祭の様子 当日はコロナ対策をしながら席間隔を開けて着席をお願いしました



▲ロビーに掲示物を貼り出しました

No.20 イニシア千住曙町管理組合法人

街並み空間・自主管理歩道コース

申請額・助成額

3,000,000円

（整備内容）

歩道の縁石、植栽及び舗装改修工事を行い、広場は人工芝へ改修



▲歩道の改修等を行い、広場は憩いの場となりました。

No.21 ライオンズプラザ北綾瀬管理組合

街並み空間・自主管理歩道コース

申請額・助成額

3,000,000円

（整備内容）

経年劣化した木製遊具の部分的な補修



▲手摺を交換し、子どもたちが安全に遊べるように補修しました。

# 令和3年度助成活動団体一覧

## ●学生コース

No.	助成回	団体または個人名	事業内容	助成金額
①	R3①	足立区立第九中学校	区立第九中学校の生徒会が中心となり、学区内の小学校3校と連携して、梅島駅前通り商店街と協力して店頭にひまわりのプランターを設置した。	10万円
2	R3②	東京未来大 森下一成研究室 足立区内地域資源活性化プロジェクトチーム	区内の古民家、空き施設の環境調査、研究を行い、総合的で横断的な情報としてマップやリーフレットにまとめ、まちの魅力や地域の賑わいづくりに繋げる活動をした。	10万円

## ●身近な活動コース

3	R3①	NPO法人わんわんサポーター綾瀬	飼い主のマナーやモラルの向上を目指し、ごみ拾い活動や防災訓練でのケージ体験を実施。わんわんパトロール隊と協働して地域の防犯活動を行った。	16万円
4	R3①	特定非営利活動法人 ベーゴマ普及協会	昔遊びベーゴマ教室を学校、学童・児童館等で開催し、子供と高齢者の居場所づくりに取り組んだ。	29万円
5	R3②	Alliance YouToo	中高年女性が抱く生きづらさに焦点を当てたアンケートやインタビュー調査を行い、その成果を冊子にまとめ講演会等で広く伝える活動をした。	30万円

## ●はばたき支援コース

6	R2①	一般社団法人まちなか整備・管理機構	未利用地や管理されていない空地进行をなくして良好な街並みの形成に寄与すべく、家庭裁判所へ相続財産管理人選任の申し立てをして所有者不存在となっている土地の処分を行った。	33万円
7	R2②	第7地区子どもの居場所づくり 実行委員会	子どもの貧困、不登校支援、高齢者の居場所づくりのため、子どもへの食事や放課後の居場所提供、不登校児童生徒への居場所提供、高齢者を中心とした交流拠点の提供を行った。	24万円
8	R3①	一般社団法人 ほしかぜ	梅田・梅島・西新井周辺地域の子供達を対象に、様々なプロの表現活動を体験し、自らも表現する機会を設け、豊かな心と表現する力を育む「居場所」を提供した。	83万円
9	R3①	足立区竹ノ塚ママとベビー・キッズの コミュニティ Koen	地域の方が自由に集い、多世代交流を行うコミュニティ形成の場として利用してもらうため、コミュニティ Koen てらまちハウスの庭をポケットパークとして整備し地域に開放した。	200万円
10	R3①	特定非営利活動法人 Chance For All	子ども達が自由に行ける駄菓子屋と子ども食堂とカフェをMIXした居場所を作り、食事等を提供。また、シニアボランティア活動を通じて、主体的な地域貢献や生きがいを感じてもらった活動をした。	200万円
11	R3①	特定非営利活動法人 Support for Woman's Happiness	空き家スペースでワークショップやポップアップショップを開き、ラオスの特徴あるモノづくりに触れる体験の場を提供し、多文化共生と地域の新たな人の繋がりを作る活動をした。	150万円
⑫	R3②	あだちコンポスト委員会	家庭や飲食店から出た生ごみを収集し、堆肥づくりと、その堆肥を施用した有機野菜作りを行った。生ごみという本来循環可能な資源を活用し、地域内で人とのつながりの活性化などを行った。	87万円
13	R3②	一般社団法人 ADACHI WOMEN&ALLIES	参加型ポータルサイト「モア・アダチ」に加え、協賛会員を紹介する「モア・アダチちゃんねる」の開設、「モア・アダチTIMES」の発行、地域活性イベント「モア・アダチフェスタ2022」を開催した。	90万円
14	R3②	特定非営利活動法人 メタノイア	外国にルーツを持つ子どもの日本語教育・保育に関する活動を新たに竹の塚、新田、伊興の3地域にも広げ、子どもの学びの場を提供した。	141万円
15	R3②	一般社団法人 おせっかい子育てプロジェクト	養護施設の子どもと地域の人たちとの交流を図り、施設での「ワークショップ、職業体験会」や「ビジネス学校」の開催、「施設の子ども達と卒業生にも安心して相談できる居場所づくり」を行った。	114万円
16	R3②	一般社団法人 チョイふる	子育て家庭への無料食品配達と見守り活動に加え、地域で孤立しがちな子育て家庭や家とも学校(職場)とも違う第三の居場所を提供した。	196万円
17	R3②	知らない路地の映画祭制作委員会	自治会・町内会等地域住民の方々を巻き込んで、映画を制作。人々の縁づくりやまちの活性化、千住の魅力の再発見につなげる活動を行った。	100万円

## ●イベント・整備活動コース

⑬	R3①	長村さと子	LGBTについての理解を促進するため、足立レインボー映画祭を開催。親しみやすい映画という題材を使いながら、ゲストによるトークショーも加え、より身近でわかりやすいイベントを実施した。	143万円
19	R3②	城北ヤクルト販売(株)	ヤクルトレディが戸別訪問し、冊子「がん検診のススメ」を使い、がん検診の理解と受診申込みの手伝いを行った。また、検診の重要性の理解を広めるため、定期的な地域健康講座を開催した。	237万円

## ●街並み空間・自主管理歩道コース(発表なし)

20	R3①	イニシア千住曙町管理組合法人	歩道の縁石、植栽及び舗装改修工事、広場の人工芝改修工事を行った。	300万円
21	R3②	ライオンズプラザ北綾瀬管理組合	経年劣化した木製遊具の部分補修を行った。	300万円

※No6は令和2年度第1回、No7は令和2年度第2回の助成で、他は令和3年度の助成。

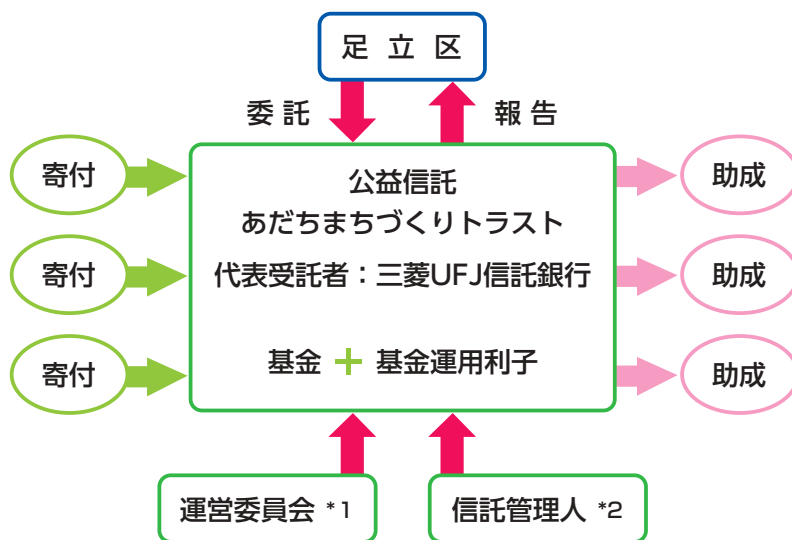
※No.に○がついている団体は成果報告会欠席者。

# 公益信託あだちまちづくりトラス 助成制度のご案内

区民のみなさまの創意工夫あふれる自主的なまちづくり活動を応援します。

## ■まちづくりトラスのしくみ

当基金は、助成事業を通じて快適で文化的なふれあいのある まちの創造に寄与することを目的としています。この趣旨にご賛同くださる方からの寄付金を、公益信託法に基づき足立区が信託銀行に委託し、運用益等でまちづくり活動を行う個人又は団体に助成しています。



\*1 運営委員会…助成先の選考にかかる諮問機関

\*2 信託管理人…受託銀行の職務執行を監督

## ■助成コース

助成コース名	助成対象者	助成限度額	助成回数
学生コース	個人又は団体（中・高・大・大学院生に限る）	10万円以内	3回まで
身近な活動コース	個人又は団体	30万円以内	5回まで
はばたき支援コース		総額500万円以内（各回200万円以内）	5回まで
イベント・整備活動コース		300万円以内	1回限り
街並み空間・自主管理歩道コース	個人又はマンション管理組合等	300万円以内	制限なし

## 閉会挨拶



久保 一夫 信託管理人  
税理士

私は、今年から信託管理人を担当していますが、昨年の11月にも報告会を拝聴させていただきました。その後、次期の申請審査の場にも立ち合わせていただきましたが、常に意見交換が活発で感心しております。当トラスは、行政で直接対応できないこと、予算のつきにくいことを助成金という形で応援するものですが、お金の使い方としては、大変素晴らしいものだと思います。さらに事業のチェックも委員の皆さままでしっかりとされている。私は、税理士ですが、まちづくりトラスのようなお金の使い方はよいことだと感じています。

## ■ 助成対象事業

### (1) まちづくりの調査・研究等を行う個人又は団体への助成

ア 住み続けられるまちに関すること

- A 水辺や緑地などを活かしたまちづくりに関する調査・研究・活動
- B 住み心地のよいまちに関する調査・研究・活動
- C バス網や新線に関する調査・研究・活動

イ 安心・安全に暮らせるまちづくりに関すること

- A 地震災害や水害災害に備える防災まちづくりに関する調査・研究・活動
- B ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりに関する調査・研究・活動
- C 身近な防犯まちづくりに関する調査・研究・活動

ウ あだちの魅力づくりに関すること

- A 地域特性を活かしたまちづくりに関する調査・研究・活動
- B 地域が守り育てる景観まちづくりに関する調査・研究・活動

エ 地域の魅力を発掘し、情報を発信する取組みに関すること

- A 地域の歴史文化を伝える取組みに関する調査・研究・活動
- B 文化芸術のまちづくりに関する調査・研究・活動
- C 子どもたちが健やかに成長していく環境の支援に関する調査・研究・活動

オ 区政の課題に関すること

A 区のボトルネック的課題（4つ）に関する調査・研究・活動

- ① 治安向上に関する調査・研究・活動
- ② 学力向上に関する調査・研究・活動
- ③ 健康に関する調査・研究・活動
- ④ 困窮の連鎖に関する調査・研究・活動

B 区民の関心が高い課題、テーマに関する調査・研究・活動

C 区のイメージアップ貢献に関する調査・研究・活動

D 区民生活に影響を及ぼす課題、問題に関する調査・研究・活動



### (2) 公園・道路等公共施設内において、ふれあいのある快適な都市景観の整備等の活動を行う団体への助成

ア 身近な公共施設の舗装・標識等の改善によるまちの美化、都市景観の整備活動

イ 身近な公共施設への街路備品の設置を通じたふれあいのあるまちづくり活動

ウ 公園・道路・堤防、公共施設建設予定地などを花や樹木により美化する活動

### (3) 公開性の高い民地において、ふれあいのある快適な都市景観の整備等の活動を行う個人又は団体への助成

ア 公開性の高い民地の舗装・標識等の改善によるまちの美化、都市景観の整備活動

イ 公開性の高い民地に街路備品の設置を通じたふれあいのあるまちづくり活動

ウ 公開性の高い民地を花や樹木により美化する活動

エ 自主管理歩道の連続性向上に資する目的で行う、自主管理歩道築造及び障害物除去に係る工事

オ 区の指定する重要樹木の保全活動

カ 区の指定する歴史的・伝統的建造物等の保全活動

### (4) その他目的を達成するために必要な事業

主に受託者又は委託者が行う活動が対象であり、個人又は団体が行う活動の場合はトラスト運営委員会が認めた場合に限る。

ア まちづくり講演会、ワークショップの開催等の活動

イ まちづくり活動及び事業実施に伴う視察会等の活動

ウ まちづくり活動の輪を広げる PR イベントの開催の活動

エ トラストの活動報告、発表会、記念式典の活動

# ／ トラストの申請方法 ／



**助成金を使っのまちづくり活動**  
(活動期間は、7月審査なら9月から、2月審査なら4月からそれぞれ1年間です)

活動成果の発表やPRを行う場合は、トラスト助成を受けた旨を表示して下さい。

## トラストを受ける条件

- ① 営利を目的としない活動であること
- ② 団体の運営や代表者の選任方法が、会則、規則等で決まっていること
- ③ 同一内容の企画で区又は区の関係団体から助成を受けていないこと
- ④ 宗教・政治活動を目的としない活動であること
- ⑤ 社会の秩序や安全に脅威を与え、社会の発展を妨げる団体及びその構成員、個人でないこと

## お問い合わせ

### 申請相談

足立区都市建設部 まちづくり課管理調整係  
TEL 03(3880)5915(直) FAX 03(3880)5605 〒120-8510 足立区中央本町1-17-1  
メール：machi\_shien@city.adachi.tokyo.jp

### 代表受託者(申請書類提出先)

三菱UFJ信託銀行 フリーダイヤル  
リテール受託業務部公益信託課 0120(622)372 〒164-0001 中野区中野3-36-16

公益信託  
あだちまちづくり  
トラストHP

